

地域住民の健康と安心を提供する 病院づくりを展開



毎日の健康から救命救急まで。

ひとりでも多くの方に安心をお届けする。

私たちは、地域とともに

みなさまの健康をサポートします。

まいにちから、
まんいちまで。

札幌市の中心部からほど近い山の手地区にあり「人と自然の健康と調和を大切に医療を実践します」を基本理念とする。災害拠点病院の指定を受け、東日本大震災ではDMAT（急性期災害医療支援チーム）を派遣し、心のケアチームを含めた5チームが医療支援を行った。臨床研究部では難病や希少疾患の先進的研究と治験の推進を図っている



①イメージキャラクターの描かれたラッピングバス。西区方面を走行中

②がん相談支援室の専任スタッフ。「疑問や不安について、一緒に考え、問題解決のお手伝いをします」

国立病院機構北海道医療センターは「本当に必要なとされる病院とは？」を命題に地域住民の健康と安心を提供する病院づくりを進めている。地域医療支援病院の指定を受けるとともに、救急、災害、神経難病、小児慢性疾患、結核などの他施設では取り組みが難しいセーフティネット系医療にも取り組んでいる。

さらに、健康増進、介護予防、アンチエイジングに向けた健康教育を定期的に開催。全職員が毎日の健康から救命救急まで地域住民の安心と健康をサポートする使命に燃え、「まいにちから、まんいちまで」というブランドプロミスを宣言している。このような取り組みをPRするため、西区を中心としたJR北海道バスの路線で、イメージキャラクターである『まいにちくん』と『まんいち犬』のラッピングバスが2015年4月より運行している。

また、同年4月より北海道がん診療連携指定病院として地域のがん診療の支援を開始。日本人に多い5大がん（肺がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、乳がん）を中心とした「がん」に対する治療体制の整備はもとより、今回の指定を機に、がん診療の質をさらに向上させることを目的として、「がん診療支援センター」を立ち上げた。その役割の一つは、がん患者や家族のさまざまな相談や支援にあたるとともに、がん患者と家族の情報交換や連携の場として「がん患者サロン」を開設。もう一つは緩和ケアチームを発足させ、がん化学療法認定看護師やがん相談員を含むチームが定期的に回診、カンファレンスを行っている。

地域医療支援病院として外来は原則紹介制だが、病状や病歴に応じた切れ目のない医療を受けられるようにかかりつけ医を紹介する専用窓口を設け成果をあげている。

院長 菊地 誠志氏
北海道大学医学部卒業。日本神経学会専門医・指導医・代議員。日本神経免疫学会理事。日本神経治療学会評議員。日本認知症学会専門医・指導医など。医学博士

がん診療支援センター長 外科系診療部長 高橋 宏明氏
北海道大学医学部卒業。日本外科学会指導医・専門医。日本消化器病学会指導医・専門医。日本消化器外科学会専門医。医学博士

独立行政法人 国立病院機構
北海道医療センター
救命救急センター併設
<http://www.hosp.go.jp/~hokkaidomc>

札幌市西区山の手5条7丁目1-1
☎011-611-8111

内科・糖尿病/脂質代謝内科・腎臓内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・神経内科・小児科・精神科・皮膚科・形成外科・眼科・耳鼻いんこう科・アレルギー科・リウマチ科・放射線科・外科・心臓血管外科・呼吸器外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・婦人科・リハビリテーション科・麻酔科・救急科

診療受付時間/
月～金 8:30～11:00 13:00～15:00（一部の科のみ）*初診については原則紹介制、再診については予約制となっております。各科・曜日により異なるため事前にご確認ください
休診日/土曜・日曜・祝日
最寄りアクセス/
JR北海道バス北海道医療センター前停留所下車、地下鉄東西線琴似駅から徒歩約20分